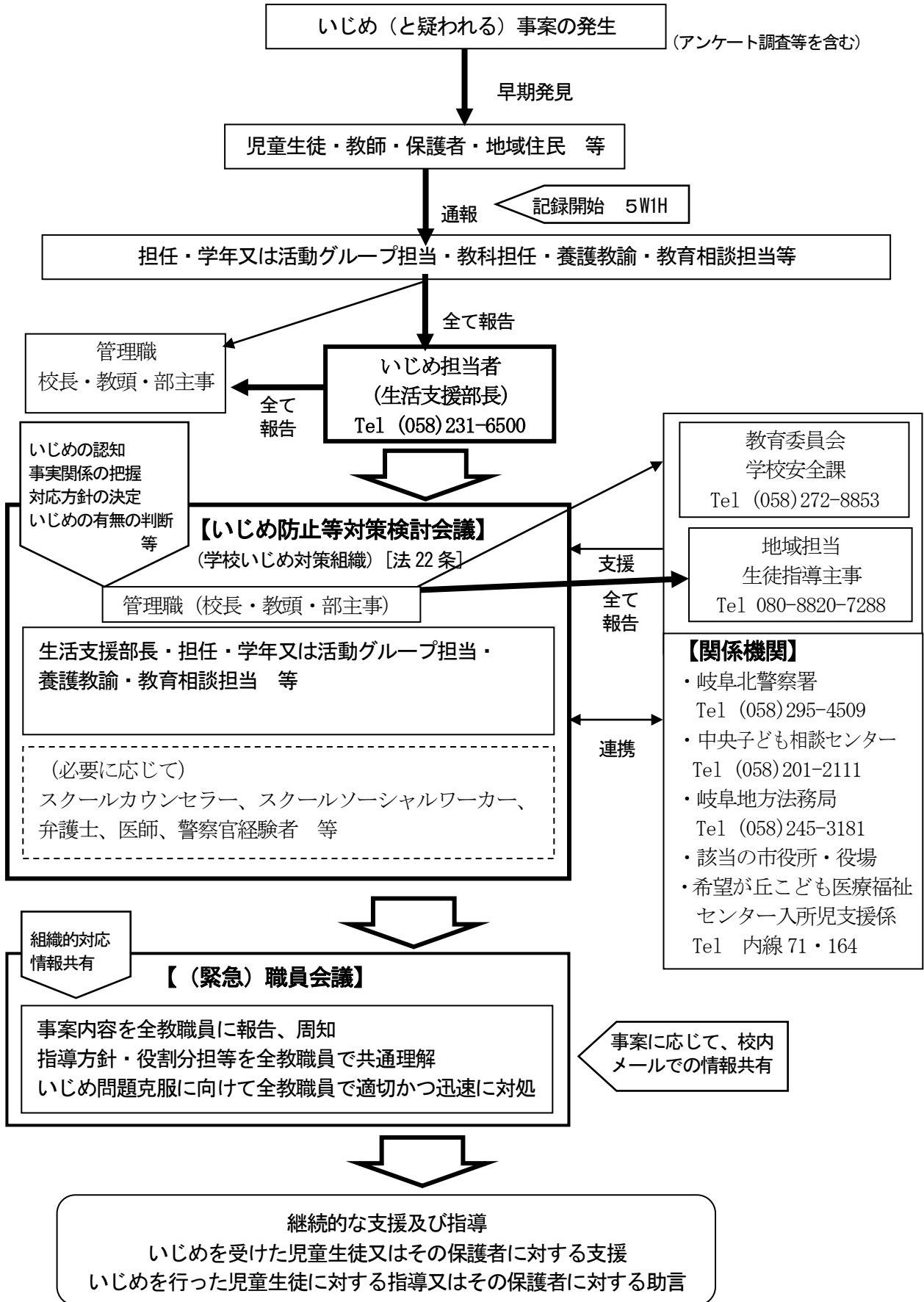
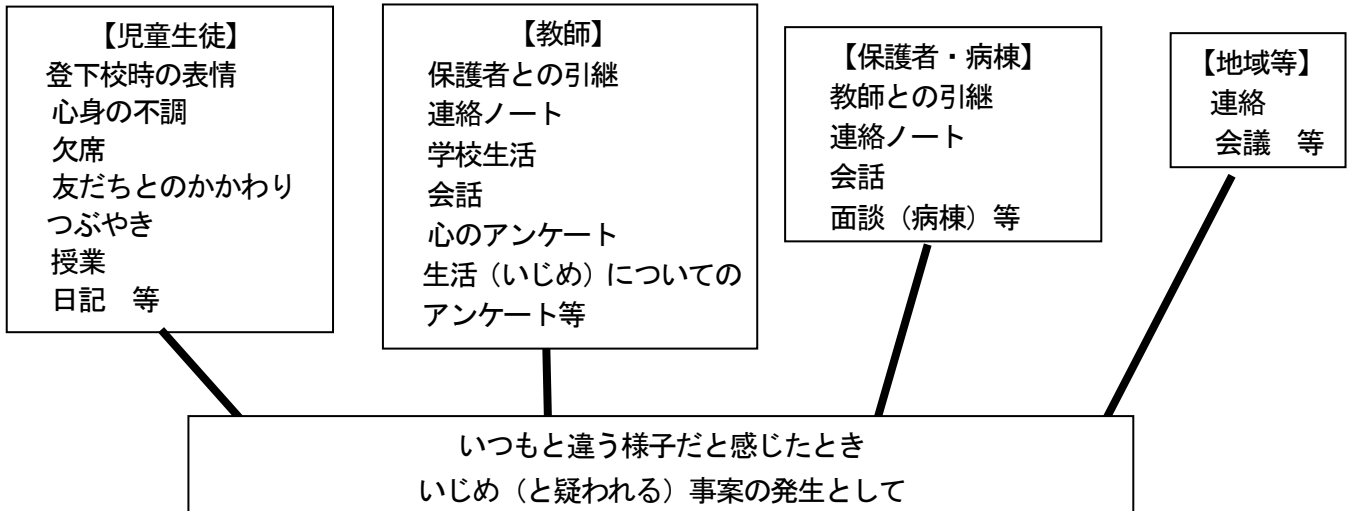


令和6年度 <いじめ対応フロー図> 岐阜希望が丘特別支援学校



<いじめ等の早期発見フロー図> 岐阜希望が丘特別支援学校



被害者視点で

日常的な立ち立ち＝ストレスになっていることに目を向ける

- <例> ① 対人関係やコミュニケーションがうまくいかない人
 ② グループに入れない人
 ③ 自分一人で問題解決をしようとしている人
 ④ 自分が周囲の人に迷惑になっていると思っている人

<表情・症状・行動>

・日常と違う様子、表情が乏しい、うつむき加減、反応が少ない、ため息、朝起きられない、興味・関心の喪失、不安やイライラ、おう吐、腹痛、急激な学力低下、集中できない、投げやりな態度、事故やけがの繰り返し、登校渋り、引きこもり等

<人とのかかわりの中で>

・こそこそ話していた、笑われた、物をとられた、壊された、たたかれた、つねられた、けられた等の嫌な思いをしたことや、痛い思いをしたこと

<ポロっとつぶやいた一言>

・「つまらないな」「疲れたな」「行きたくないな」等

※いじめられている人が「いじめ」かもしれないと気付けるような、被害者を真ん中にした「いじめ認知」を広げるようにする。

※加害者への対応ばかりではなく、被害者の気持ちに寄り添った指導や支援を行い、対処の仕方を身に付ける力を育てていく。

児童生徒に対する支援として、本人が選択できるように「4つのケア」を提示する。

- ① セルフケア
- ② 担任によるケア
- ③ 生活支援部（教育相談）によるケア
- ④ スクールカウンセラーや外部専門機関によるケア

※安心・安全で楽しく過ごせる生活環境を整えて、居心地がよくなることがゴール

